

皆様、おはようございます。

昨日は大変変わりやすいお天気でした。晴れていたかと思うとものすごく激しい雷雨。水があふれ出て道路が川のようになっているところがテレビで出ていました。線状降水帯、ゲリラ豪雨、油断のならない時期に入っていますが、皆様熱中症とも合わせて、どうぞくれぐれもお気を付けいただきたいと思います。

さてヨハネによる黙示録も2章に入りました。

「右の手に七つの星を持つ者、七つの金の燭台の間を歩く者」とは、1章にも登場しましたが、主イエス様であることが分かっています。

七つの金の燭台とは、小アジア地方にある七つの教会。それは値高く、主のご栄光を証しする、火に輝ききらめく金の燭台と例えられています。

七つの燭台が置かれる七つの地名が黙示録1章に書かれていましたが、この地名をなぞると半円形といいますか、馬のひづめのような馬蹄形になります。その真ん中に主は立たれ、歩き進まれ、教会の間を歩いておられます。七つの星は、教会の天使とありますが、天使とは教会での働き手です。神様はこの教会の働き手をしっかりと担い、握って星と輝かせてくださいます。そして諸教会の真ん中におられ、その間を歩き、見守っていてくださいます。この七つの教会への手紙は、イエス様からの手紙です。教会への手紙です。新約聖書は、たくさんのパウロの手紙を収録していますが、イエス様からの手紙というのはここだけです。私たちの教会にイエス様から手紙が来るとしたら、どういう内容になるのでしょうか。何か楽しみのような、恐ろしいような気がいたします。

2 「わたしは、あなたの行いと労苦と忍耐を知っています。また、あなたが悪者どもに我慢できず、自ら使徒と称して実はそうでない者どもを調べ、彼らのうそを見抜いたことも知っています。

3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために我慢し、疲れ果てることがなかった。

この2節と3節とは、掛け言葉になっています。対比をなしています。そのかけ合わせはこの二つの節の中に3つあります。

「私はあなたの行いと労苦を知っている。」これは、「疲れ果てることがなかった」に対比します。語根を同じくするこの言葉、

あなたの働き、業は困難を極めるものであったことを知っている。並大抵のことではなくて、困難、苦難であった。しかしあなたはそれにひどく疲れ、うんざりしたりせず、飽き飽きとせず、退屈とせずに、疲れ果てずにやり通してくれた。このことを褒めていただいている。

次に、2節の「あなたの忍耐を知っている」という言葉と、3節の「あなたは忍耐をし続け」

との、「忍耐」という言葉です。苦難と試練の中での忍耐力です。熾烈な状況の中での忍耐力。確固たること、不動。不屈の努力と頑張りです。固く忍び続けること。堅忍とも言われます。

使徒 19:6 そして、パウロが彼らの上に手をおくと、聖霊が彼らにくだり、それから彼らは異言を語ったり、預言をしたりし出した。

19:7 その人たちはみんなで十二人ほどであった。

19:8 それから、パウロは会堂にはいって、三か月のあいだ、大胆に神の国について論じ、また勧めをした。

19:9 ところが、ある人たちは心をかたくなにして、信じようとせず、会衆の前でこの道をあしざまに言ったので、彼は弟子たちを引き連れて、その人たちから離れ、ツラノの講堂で毎日論じた。

19:10 それが二年間も続いたので、アジャに住んでいる者は、ユダヤ人もギリシャ人も皆、主の言を聞いた。

19:11 神は、パウロの手によって、異常な力あるわざを次々になされた。

19:12 たとえば、人々が、彼の身につけている手ぬぐいや前掛けを取って病人にあてると、その病気が除かれ、悪霊が出て行くのであった。

19:13 そこで、ユダヤ人のまじない師で、遍歴している者たちが、悪霊につかれている者にむかって、主イエスの名をとなえ、「パウロの宣べ伝えているイエスによって命じる。出て行け」と、ためしに言ってみた。

19:14 ユダヤの祭司長スケワという者の七人のむすこたちも、そんなことをしていた。

19:15 すると悪霊がこれに対して言った、「イエスなら自分は知っている。パウロもわかっている。だが、おまえたちは、いったい何者だ」。

19:16 そして、悪霊につかれている人が、彼らに飛びかかり、みんなを押えつけて負かしたので、彼らは傷を負ったまま裸になって、その家を逃げ出した。

19:17 このことがエペソに住むすべてのユダヤ人やギリシャ人に知れわたって、みんな恐怖に襲われ、そして、主イエスの名があがめられた。

19:18 また信者になった者が大ぜいきて、自分の行為を打ちあけて告白した。

19:19 それから、魔術を行っていた多くの者が、魔術の本を持ち出してきては、みんなの前で焼き捨てた。その値段を総計したところ、銀五万にも上ることがわかった。

19:20 このようにして、主の言はますます盛んにひろまり、また力を増し加えていった。

大女神アルテミス神殿のお膝元で、神様は「パウロの手によって、異常な力あるわざを次々になされ」ました。

困難はあるけれど、忍耐できるということも主の恵みです。主の力ある支えの中で私たちは苦難と試練の中での忍耐し、熾烈な状況の中での忍耐力を持ち、確固たること、不屈

の努力と頑張りを働かせ、固く忍び続けることが出来ます。

「主が私の手を」新聖歌 474

1. 主がわたしの手を 取って下さいます

どうして怖がったり 逃げたりするでしょう

優しい主の手に 全てを任せて

旅ができるとは 何<sup>なん</sup>たる恵みでしょう

2. ある時は雨で ある時は風で

困難はするけれど 何<sup>なん</sup>とも思いません

優しい主の手に 全てを任せて

旅ができるとは 何たる恵みでしょう

3. いつまで歩くか どこまで行くのか

主がその御旨を 成し 給 うままです

優しい主の手に 全てを任せて

旅ができるとは 何たる恵みでしょう

4. 誰<sup>だれ</sup>もたどり着く 大<sup>おおかわ</sup>川 も平気です

主がついておれば わけなく越えましょう

優しい主の手に 全てを任せて

旅ができるとは 何たる恵みでしょう

3 つ目の掛け言葉は、「悪い者たちをゆるしておく(我慢する)ことができず」、「わたしの名のために我慢し」たということです。

「使徒と自称してはいるが、その実、使徒でない者たちをためしてみて、にせ者であると見抜いた」のです。

イエス様のことを思いますと、我慢できないことがあります。イエス様は神様の一人子、神ご自身であられるのに、あんなにも身を滅ぼして、十字架について私たちの身代わりとなり、

贖いをなしてくださったのに、世の中の教祖たちはどうでしょうか。

昨今安倍元首相を銃殺した犯人という人が、大変な苦しみの中にあった人だったということが分かってきました。身内が病気で苦しみ、母が統一教会へ入り、身内から自殺者が相次ぎました。あの山上徹也という人も、自殺未遂をしたそうです。名称を変えた現在の統一教会の代表の会見は嘘ばかりのものでした。

「使徒と自称してはいるが、その実、使徒でない者たちをためしてみて、にせ者であると見抜」く、こういう目がなければ、大変な状況に陥ってしまいます。私たちはあの統一教会の中に苦しむ方々の救いのために祈り、行動をすべきことを心に深く、その迫りを感じます。

エペソの教会の状況の中にも、にせ使徒の働きに対する嫌悪感があり、我慢がならないという思いがあり、そこに対する祈りと行動がありました。そこには深い忍耐と辛苦があったかもしれません、彼らはイエス様の御名のために、イエス様が私たちにしてくださったことのゆえに、イエス様のお名前にかけて、にせ使徒が活躍することを許さず、我慢できず、そのためにならば困難でも我慢すると言って忍びとおして弱り果てることはありませんでした。このことをイエス様から褒められています。

しかし責めるべきことがあると次の節には書いてあります。

4 しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

このように主への思いに厚く感謝して、にせ使徒を見抜き、教えのために進んでいた彼らが、初めの愛から離れていたということを知るのは驚きです。

七つの教会の中、一番初めに語り掛けられる教会。大都市にある教会。偉大な歴史のある、エペソの町に神様が、そのアルテミス神殿の町のどれほど偉大なことをしてくださったのかを深く知る重要な教会に、何が起こったのでしょうか。

いつの間にか愛が冷えてしまった。死せる正統主義で、正しさ、見抜く、貫き通す目を持つても、愛がなくなってしまっていた。伝統、名前、格式に甘んじて、神学的知識に甘んじて、本当に大切なことを失ってしまっては、何にもならない。

1コリント 13:1 たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鎧鉢と同じである。

13:2 たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じっていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等し

い。

13:3 たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めるない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

13:8 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。

13:9 なぜなら、わたしたちの知るところは一部分であり、預言するところも一部分にすぎない。

13:10 全きものが来る時には、部分的なものはすたれる。

13:11 わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。

13:12 わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。

13:13 このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

今日の私たちの教会にも、何が大切なのか、何を忘れてはならないのかが示されます。

マタイ 7:13 狹い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはといって行く者が多い。

7:14 命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。

7:15 にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。

7:16 あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。

7:17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。

7:18 良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはできない。

7:19 良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる。

7:20 このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。

7:21 わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、

天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。

7:22 その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。

7:23 そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行てしまえ』。

7:24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。

7:25 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。

7:26 また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。

7:27 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである」。

7:28 イエスがこれらの言を語り終えられると、群衆はその教にひどく驚いた。

7:29 それは律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように、教えられたからである。

良い行いをたくさん成そうとも、私たちが本当にイエス様につながれ、み言葉に聞き従い、そうして神様の愛に満ちているのか、心探られます。

2:5 そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう。

ここで大切なのは、「思い起こし」、「悔い改め」、「行いなさい」 いうことです。

深く初めの愛を思い起こし、イエス様が私たちにしてくださったことのゆえに、ただイエス様の愛と救いによって私たちがあるということを思い起しましょう。そして悔い改める。心を変え、罪から向きを変え、私たちの人生の方向を変えるのです。こうしてもう一度主のお心にかなったことを行わせて頂く。これは的外れにはならないのです。

2:6 しかし、こういうことはある。あなたはニコライ宗の人々のわざを憎んでおり、わたしもそれを憎んでいる。

ニコライ宗の人々の業を憎む。これは混ざりに混ざった人間の考え方で、妥協主義、世俗主義の、偶像礼拝の不品行の考えだったようです。これらのこと憎み、心の向きをいつも神様に合わせ、私たちも生きたいものです。

2:7 耳のある者は、御靈が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者には、神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることをゆるそう』。

いのちの木の実。かつて園の中央に位置し、人が罪を犯して後はこれを食べてはならないと命じられてしまった木です。

この「木」という言葉には、十字架、足枷の木という意味も見出されます。

いのちの木。それはイエス様がその実を十字架の上に犠牲にして私たちの罪を贖い、血をもって与えてくださった木です。私たちは、このイエス様の十字架のもとからいのちの実をいただき、食べ、永遠に生きることが出来ます。

このイエス様の恵みをかみしめ、このイエス様の愛にとどまり、ここから今週も歩み始めたいと願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。主を証しするため、時に感じる働きの大変さに倦み(うみ)疲れることなく、忍耐し、惡に我慢できず、神の御名のためには我慢を喜びとして進ませてください。神の一人子イエス様が私たちのために喜んで呪いの木に就かれ、贖いをなし、命の木から私たちが食べることが出来るようにして下さった愛をいつも心にかみしめることが出来ますように。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン